

日本地理教育学会 6 月例会 発表要旨集

「システムアプローチの理論と実践」

- 13 : 30～13 : 35 開会挨拶 竹内 裕一 (本学会会長)
- 13 : 35～13 : 40 趣旨説明 山本 隆太 (集会委員)
- 13 : 40～15 : 10 講演 アーミン・レンプフラー教授 (スイス・ルツェルン教育大学)
「地理教育におけるシステムコンピテンシーモデルの開発」
- 15 : 10～15 : 20 質疑応答
- 15 : 20～15 : 25 休憩
- 15 : 25～16 : 05 実践報告 今野 良祐 (筑波大学附属坂戸高校)
「世界遺産をテーマとした地理授業とシステムアプローチ」(仮)
- 16 : 05～16 : 40 全体協議
- 16 : 40～16 : 50 コメント 山本 隆太 (静岡大学)
- 16 : 50～16 : 55 閉会挨拶 荒井 正剛 (集会委員長)

* 例会終了後、懇親会を予定しております。休憩時間中 **15 : 25** までに受付にお申し出ください。

<企画趣旨>

ESD や SDGs の進展とともに、欧米の地理教育ではシステム思考に注目が集まっている。発端は 1992 年の地理教育国際憲章において、「エコシステムの内部における人間システムと自然システムの統合を学ぶことにより、持続可能な開発は探究される」と記載されたことにある。続くルツェルン宣言(2007 年)でも、21 世紀のパラダイムとして「「人間-地球」エコシステムの持続可能な開発」が位置付けられた。ドイツ語圏では、地理教育の基礎概念をシステムと定義し、システムという見方・考え方あるいはコンピテンシーを育む手法を開発してきた。これは「地理システムコンピテンシー」と呼ばれる。

本例会では、地理システムコンピテンシーの開発に関わったアーミン・レンプフラー教授を招聘し、最新の動向について報告いただくとともに、今野良祐先生には日本での地理教育実践の立場からシステムの可能性についてご報告いただく。

今後の ESD や SDGs の展開にあたり大きな転機となることを期待したい。

なお、例会タイトルのシステムアプローチとは、システムに関わる教育・学習の目標論から方法論まで全般という広い意味で用いている。これに対して、システムコンピテンシーは資質能力論を指すものである。

(文責：山本隆太 (静岡大学))

2018 年 6 月 24 日 (日)

於 早稲田大学 (東京都新宿区) 11 号館 506 室